

キラリ
光るまち

れいほく田舎暮らし

ネットワークの歩み

ぼつちり堂の外観



「子育てするなら嶺北でとUターン」
はじめまして。NPO法人れいほく田舎暮らしネットワークの事務局長をしております川村幸司と申します。大学から京都で暮らしていたのですが、子供が産まれたのをきっかけに、子育てするなら地元でと高知県嶺北地域へUターン移住いたしました。えっ!?こんなところでお店!?とびっくりされるほど、結構な山奥にて「ぼつちり堂」というネット通販専門の焼き菓子店を経営しております。

平成19年（帰ってきた翌年）に設立してすぐの、当団体の移住支援ボランティア活動に加わりました。その理由は、地元の知人・友人とのふれあいも勿論良いのですが、暮らしの上で、同じ感性の移住者仲間と語り合える環境があることの重要性を感じたからです。

平成24年より、高知県が移住推進に力を入れたのをきっかけに、職員として事務局長に就任して、今に至ります。

「嶺北地域について」

ここで一度、簡単に嶺北地域の紹介をしておきます。嶺北地域は四国の真ん中に位置し、吉野川の源流域にあたります。交通の利便性も悪くなく、空港や県庁まで車で約1時間。1.5時間〜2.5時間超で四国各県庁所在地へとアクセスできます。嶺北4町村で人口13000人、森林率88%とほとんどが山に囲まれているものの、ネット環境は光、スーパ、病院など必要なものは一通り整っていて、中山間地域ながら意外と便利で暮らしやすい町です。

その一方で、限界集落の名前が

発祥した地でもあります。高齢化率が県で一位である大豊町がある地域でもあり、嶺北全域での高齢化率43・6%と過疎や高齢化を筆頭に課題も多い地域といえます。それにも関わらず、嶺北地域は移住者、特に子育て世代が多い地域として近年、注目されてきております。このように言われるようになった一因には、当団体がコソコソと活動を積み重ねてきた結果があると自負しています。そんな当団体の特徴や活動を以て、紹介させていただきます。



NPO法人れいほく
田舎暮らしネットワーク
事務局長 川村 幸司



移住体験ツアーの様子

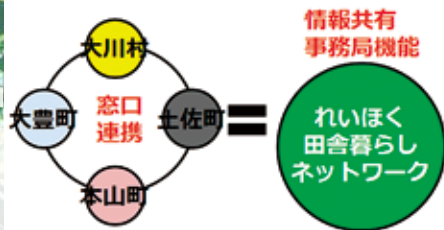
「れいほく田舎暮らしネットワークの由来」

結成のきっかけは今年から9年前、会長である山本福太郎が、定年後に大阪からUターン。過疎化が進むふるさとを見て、「こりや何とかせないかん」と、嶺北地域へのUターン者を中心に、移住者による移住支援団体として任意団体からスタート。昨年の6月にNPO法人となりました。移住相談や空家の紹介はもちろん。交流会イベント、地域の智慧を学ぶワークショップ、移住体験ツアーなど様々な活動を実践しています。

「行政との連携」

次に当団体と行政との連携・組織体系について紹介いたします。

高知県には県勢浮揚を目標とした産業振興計画というものがありまして、高知県は



組織の連携イメージ図

当団体の移住推進活動に注目し、嶺北地域の重点施策の一つとして平成24年より「嶺北地域の連携による移住促進の取組」を打ち出すことになりました。

具体的には、各町村役場にて移住相談専属の役場職員を配置し、移住相談への対応や空き家調査の実施・強化をしました。当団体も同じく職員配置をすることになり、4町村の情報共有、事務局機能を果たしてあります。

各町村単独で活動するよりも、広域連携でやる方が移住者増の効果が高いと実感しています。どういうことか？その理由の一つは、ネットワーク化によるパス回しにあるといえます。長く移住対応していると、自分の町に来る見込のなさそうな移住希望者はある程度わかるもの。とはいえ、移住希望者を隣町へ紹介するというのは行政の性格上、難しいものです。でもそれが、連携事務局でありNPO団体である当団体ならば他町村へつなぐことが可能になります。結果、各町村単独でやるよりも良い結果が出ています。

このような嶺北4町村内の情報共有や連携の事務局機能の仕事に加えて、移住者による移住支援団体ならではの外部発信、集客、ブランド化、移住後のケアなどを総合的にやっています。

当団体がHPやFBを中心として地域の魅力を外部発信することで、嶺北への移住の希望者

数を増やす↓各町村に移住希望者を回す↓親身な対応でマッチング率を上げる↓移住後のケアを交流会や各種イベントを通じて行うことで定着率と口コミ拡散率を上げる。

希望者数×マッチング率×定着率×口コミ拡散率＝移住者数 を意識してそれぞれの変数を上げることを意識して活動して、継続的な移住者増を目指しています。

「つながりをキーワードに 様々なイベント開催」

平成26年度に行った具体的な活動としては、以下のようなものがあります。

- ①移住希望者を対象としたイベント
田舎暮らし体験ツアーを2回。高知県主催の移住相談会への参加5回。当団体単独主催の移住相談会2回。
- ②移住者同士の交流、地域住民との交流を目的としたイベント
てづくり市を季節毎開催(年4回)、新年会や花見会などの移住者交流会(年4回)
- ③移住者と移住希望者を対象としたイベント
お茶&紅茶作りWS(計3回)、醤油しぼりWS、ハチ巣箱づくりWS、石積みWS、土壁づくりWS(計3回)、こんにゃく、豆腐づくりWS

上記のようなイベントの数々は以前から取り組んでいるものですが、今年度は③の地域の特性を活かした各種ワークショップに特に力を入れてきました。というのも、



石積みワークショップの様子

も嶺北地域のファン&サポーター増へとつながっていくと実感しているからです。

「今後の活動」

改めて見てみると、当団体がやっていることは草の根の「つながり」を中心とした活動を愚直に続けてきたともいえます。田舎と都会をつなぐ。移住希望者と移住者をつなぐ。移住者と地元住民をつなぐ。移住者と土地の文化・知恵をつなぐ。この「つなぐ」＝ネットワーク化することをキーワードとして大事にしてきました。

そして、これからも移住支援を通じて、地域住民と共に子や孫へつないでいける循環型の町づくりを目指し、実践していきたいと思います。今後とも頑張っていきたいので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

FBやブログ、HPを通じて、この地域での学びや暮らしぶりを紹介することで、WS参加者とその知人が嶺北の魅力を知り、少しずつ地域への理解やファン化が進む。結果、移住者の定着率増と潜在的移住希望者(又は移住に)つながりなくとも